

「放射線災害の全時相に対応できる人材養成」公開シンポジウム
放射線健康リスク科学分野を支える
メディカルスタッフ
事故対応とヒューマンファクター
平成29年11月3日（祝・金）於つくば国際会議場

平成28年度大学教育再生戦略推進費 「放射線健康リスク科学人材養成プログラム」

長崎大学医学部医学科先端医育センター 助教 浦田芳重

放射線健康リスク科学人材養成プログラム

課題

長崎大学・広島大学・福島県立医科大学共同事業

福島原発事故により
引き起こされた放射
線の健康影響に対す
る不安の高まり



放射線影響学のみな
らず災害医療、リス
クコミュニケーション
も包含した新しい
放射線健康リスク科
学教育の必要性



教育リソース（人材、
コンテンツ、知識・
経験等）は極めて限
られている



二方向的な展開が必
要

- 現在の教育資源を有効に活用し速やかに全国的に展開する
- 将来の人材を育成し、教育リソースを充実化する

解決するために

長崎大学

広島大学

福島県立
医科大学

- 放射線災害を経験し、放射線健康リスク科学に関する教育リソースを有する3大学が連携
- リアリティの高い放射線健康リスク科学教育
- 段階的・組織的な教育体制のもとで、放射線グローバルヘルスにも貢献できる人材を養成

学部教育における
教育プログラムの実績

長崎大学	広島大学	福島県立医科大学
<ul style="list-style-type: none">• 環境因子系	<ul style="list-style-type: none">• 放射線生物学	<ul style="list-style-type: none">• 放射線生物/災害教育• 放射線生命医学&PBL• 放射線災害医療

各大学における教育実績をベースに、**教育内容のさらなる充実・拡張**と**教育研究交流の促進**による人材育成



長期的視野に立った一貫性のある教育体制の提供

大学院教育における
研究者養成

- 共同大学院「災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）」（長崎大・福島県立医大（平成28年～））
- 博士課程教育リーディングプログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」（広島大（平成23年～））

高度プロフェッショナル
養成

- ネットワーク型放射線災害・医科学研究拠点（広島大、長崎大、福島県立医大、平成28年4月設置）

グローバルヘルスと
原子力災害に対応

- 高度被ばく医療支援センター/原子力災害医療・総合支援センター（長崎大、広島大、福島県立医大、平成27年10月指定）



輩出・配置

育成する人材像
<ul style="list-style-type: none"> 放射線の生物学的影響の知識を基盤に、放射線健康リスク科学を総合的に理解し、説明できる人材 専門性と実践力を兼ね備え、多職種で災害時に連携し、かつリーダーシップが取れ、また将来にわたって国際的な放射線健康リスク科学研究、指導に関わることのできる人材 医療放射線（診断用、治療用）の有用性と危険性を理解し、医療における放射線の利用を管理指導し、国際的に活躍できる医療人材 放射線事故だけでなく国内外の想定外の事態に対し、どのように対応するべきか考え、実行できる人材

普及のための取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 授業及び教育コンテンツは既存のネットワーク型教育プラットフォームを活用したオンデマンド教育として公開 各大学における講義等の一般公開 放射線災害医療サマーセミナー（福島県立医科大学で毎年8月に開催）等の参加者公募型教育との連携



国際機関への人材供給
エネルギー需要の拡大による地球規模での原子力リスクへの対応

キャリアパス

三大学教育プログラムの概略

	長崎大学	広島大学	福島県立医科大学
レギュラーコース	<ul style="list-style-type: none"> 医学部医学科学生対象 1コマ60分×30回 放射線の基礎に関わる科目に実学として規制科学、放射線防護を取り入れ、さらに放射線リスクコミュニケーションと放射線被ばく医療について福島原発事故により得られた経験、教訓を最大限生かしたリアリティの高い教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 医学部学生（保健学科を含む）、薬学部学生、歯学部学生対象 1コマ（90分）/日×15回 放射線の生物学的影響に関する基礎的知識を与るとともに、放射線の臨床的有用性とリスク、放射線災害への対応等を、講義および放射線災害への対処に関する実習により習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医学部学生対象 1コマ60分×29回（3年） 1コマ60分×24回（5年） 放射線・災害の基礎から臨床、社会科学を包括的に学習するとともに、リスク制御、放射線リスクコミュニケーション等について原発事故により得られた経験、教訓を最大限生かしたリアリティの高い教育を行う。

講師派遣

学生交流

成長への影響に着目した教育評価システムの構築

インテンシブコース	<ul style="list-style-type: none"> 推薦入試枠学生2名程度及び一般学生より3名程度受入れ 長崎大川内村復興推進拠点等を活用したフィールド実習 長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）講義の共修 	<ul style="list-style-type: none"> 医学部学生（保健学科を含む）、薬学部学生、歯学部学生、大学院生、後期研修医、放射線教育に関わる教員 夏季休暇中に集中実施 講義 実習 DVD 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度以降入学・在学中の医学部・看護学部学生、共同大学院学生、日本国内および海外からの学生・大学院生、日本国内の医療関係者・搬送関係者・行政関係者 E-learning・講義・実習・被災地見学・健康相談事業などを総合した4日～6日コース
-----------	--	--	--



放射線健康リスク科学人材養成プログラム

Radiation Health Risk Science Human Resource Development Program



HOME

ごあいさつ

MESSAGES

概要

OUTLINE

組織図

ORGANIZATION

プログラム

PROGRAMS

活動報告

ACTIVITIES

関連リンク

LINKS

お問い合わせ

CONTACT



ニュース & インフォメーション

[more >](#)

NETWORK



- 2017年10月11日
平成30年2月2日（金）、長崎大学医学部 良順会館において長崎大学、広島大学と福島県立医科大学の公開シンポジウム：「放射線健康リスク科学人材養成プログラム 公開シンポジウム2018」（仮題）を開催予定です。シンポジウムの内容が確定しましたら、直ちにアップいたします。
- 2017年10月11日
平成29年11月3日（金・祝）、つくば国際会議場において筑波大学の公開シンポジウム：「放射線健康リスク科学分野を支えるメディカルスタッフ－事故対応とヒューマンファクター－」が開催されます。本プログラムの進捗状況を浦田助教が講演予定です。
- 2017年8月30日
平成29年8月18～19日、第49回日本医学教育学会大会（札幌）のシンポジウム「医学教育における放射線リスク科学教育の必

INTRODUCTION

放射線災害を経験し、放射線健康リスク科学に関する教育リソースを有する3大学（長崎大学・広島大学・福島県立医科大学）が連携し、リアリティの高い放射線健康リスク科学教育に基づき、段階的・組織的な教育体制のもとで、放射線グローバルヘルスにも貢献できる人材養成するプログラムです。

Radiation Health Risk Science
Human Resource Development Program

FUKUSHIMA

HIROSHIMA
NAGASAKI

- ▶ ホーム
- ▶ ごあいさつ
- ▶ 概要
- ▶ 組織図

- ▶ プログラム
長崎大学医学部医学科/大学院医歯薬学総合研究科
広島大学医学部/原爆放射線医学研究所
福島県立医科大学医学部/共同大学院
- ▶ 活動報告

- ▶ 関連リンク
- ▶ お問い合わせ
- ▶ 長崎大学
- ▶ 広島大学
- ▶ 福島県立医科大学

- 長崎大学シラバスについて

月	曜日	時校	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室		
11	8	水	1	放射線物理学	放射能・放射線の基礎物理学	西	2講	
			2					
			3	放射線生物学 (1)	DNA損傷修復と放射線分子細胞応答	鈴木	2講	
11	15	水	1	放射線生物学 (3)	放射線による細胞死誘導と組織反応	鈴木	2講	
			2	放射線生物学 (4)	個体レベルの放射線影響とがんの放射線治療	山内	2講	
			3					
12	13	水	4	外部講師 講演	医療被ばく	粟井 (広島大)	2講	
			5		原子力災害医療	長谷川 (福島県立医大)		
			6					
12	20	水	1	放射線生物学 (5)	集団レベルの放射線影響	山内	2講	
			2	放射線防護学	放射線防護のための規制科学と福島原発事故	松田		
			3					
			4	実習 (A グループ) 講義 (B グループ)	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設		RI実験施設・CBT室
			5		医療における放射線利用と放射線防護の基礎	工藤		
			6					
1	10	水	4	実習 (B グループ) 講義 (C グループ)	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設・CBT室	
			5		医療における放射線利用と放射線防護の基礎	工藤		
			6					
1	17	水	4	実習 (C グループ) 講義 (D グループ)	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設・CBT室	
			5		医療における放射線利用と放射線防護の基礎	工藤		
			6					
1	24	水	4	実習 (D グループ) 講義 (A グループ)	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設・CBT室	
			5		医療における放射線利用と放射線防護の基礎	工藤		
			6					
1	31	水	4	放射線リスク学	放射線健康リスクとリスクコミュニケーション	折田	2講	
			5	放射線計測学	放射線計測の基礎	西	2講	
			6					

環境因子系実習

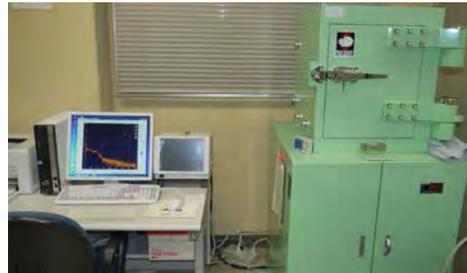
ゲルマニウム半導体検出器による土壌資料の核種分析と周辺住民の被ばく線量の推定

インド・タミル
ナドゥ高自然放
射線地域土壌

Ac-228 / Th-228
Cs-134 / Cs-137



核種分析



→ 分布マップの作成

→ IAEA TECDOC1162
Procedure E3 に基づく
被ばく線量の推定

健康リスクの考察

福島県内各地の
汚染土壌

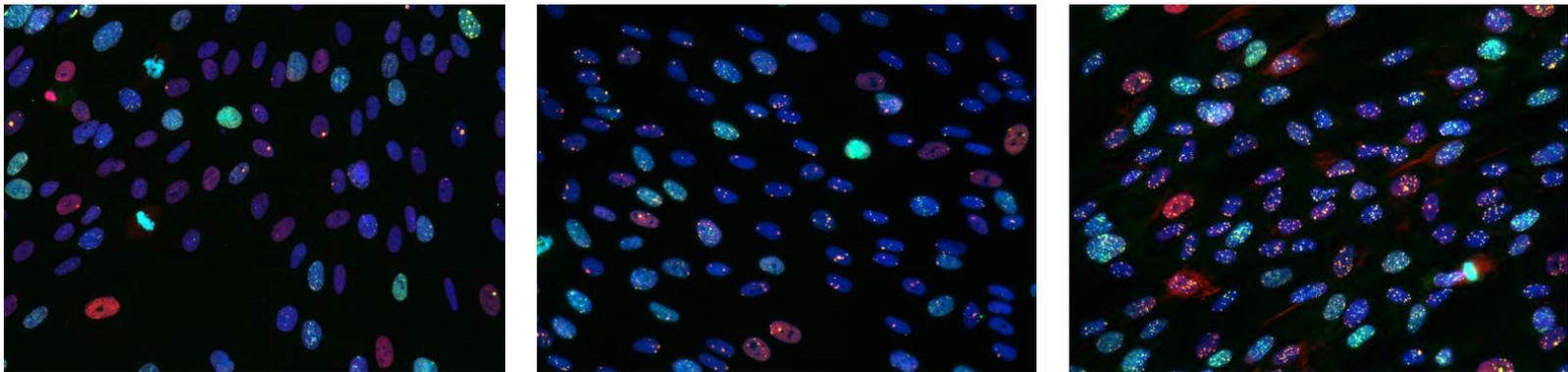
ゲルマニウム半導体検出器

環境因子系実習

放射線によってできるDNA二本鎖切断の定量

正常人線維芽細胞におけるフォーカス（リン酸化ヒストンH2AX、53BP1）の顕微鏡写真

- 0 Gy
- 0.1 Gy 照射直後、6時間後、12時間後
- 0.25 Gy 照射直後



フォーカスカウント

DNA二本鎖切断の線量依存性と修復について考察

H29年度長崎大学実習風景

ほらー
ちゃ～ん
とみとか
んば!

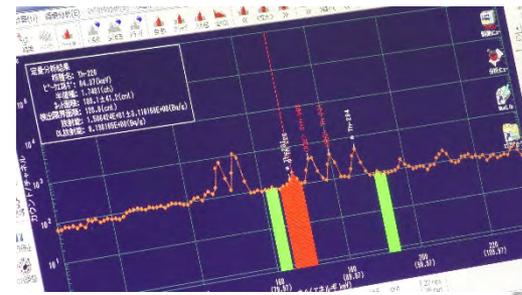


しっかり
聞いとっ
てネ～

こいで・・・
よかとよね～



ふ～ん!



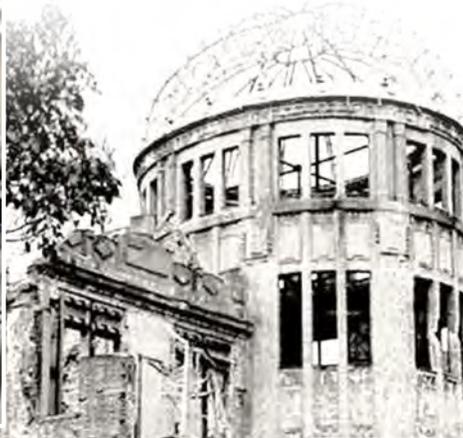
- 広島大学シラバスについて

科目名 (英文科目名)		放射線生物学・放射線健康リスク科学 Radiation Biology & Radiation Health Risk Sciences		平成29年度前期講義実施計画
開設曜日時限		火曜日3・4時限 (10:30~12:00)	教室	第5講義室
回数	月日	講義テーマ(英文)		担当教員名
1	4月11日	授業の概要Introduction 放射線災害における医師の役割:原爆被爆者の医療経験から		粟井和夫 鎌田七男 (広大名誉教授)
2	4月18日	原爆の疫学 Epidemiology of atomic bomb survivors		小笹晃太郎 (放射線影響研究所)
3	4月25日	放射線物理の基礎 Radiation physics		保田浩志
4	5月 2日	放射線の物理現象と生物影響の接点 Initial process of biological effect of ionizing radiation		飯塚大輔 (放射線医学研究所)
5	5月 9日	放射線防護 Radiological protection		保田浩志
6	5月16日	放射線の生物学的影響(1) DNA損傷修復機構 DNA repair system		松浦伸也
7	5月23日	放射線の生物学的影響(2) 染色体損傷 Chromosomal aberration		田代 聡
8	5月30日	放射線の生物学的影響(3) 放射線発がん Radiation carcinogenesis		稲葉俊哉
9	6月 6日	医療放射線と人体影響(1) 診断放射線による被曝影響と放射線防護法 Radiation exposure and protection in radiological examinations		粟井和夫
10	6月13日	医療放射線と人体影響(2) 放射線治療のための生物学 Radiation biology for radiotherapy		永田 靖
11	6月20日	原子力災害医療(1):緊急被曝医療 Radiation emergency medicine		廣橋伸之
12	6月27日	原子力災害医療(2):メンタルヘルスケア Mental health care at radiation emergency		前田正治 (福島県立医大)
13	7月 4日	放射線リスクコミュニケーション Risk communication		神田玲子 (放射線医学研究所)
14	7月11日	特別講義:放射線関連のキャリアパス-国際社会での活躍を目指して-(仮題)		米倉 義晴 (放射線医学研究所)
15	7月18日	試験 Examination		粟井 和夫

備考 成績評価の方法:試験成績と出席状況等について総合的に評価する。

緊急被ばく医療臨床実習

広島大学では、平成29年度より、**医学科5年生**を対象に緊急被ばく医療に関する臨床実習を開始しました。これは、**救急医学の臨床実習（2週間）**の時間を使って行われるもので、臨床実習第2週目の木曜日午前に実施されます。担当は、原爆放射線医科学研究所の廣橋伸之教授と緊急被ばく医療推進センターの谷口金吾放射線技師です。**具体的な実習内容は、緊急被ばくのミニレクチャーを受けた後に、GMサーベイメータの使用法、タイベック防護服の着脱、防護マスクの装着等について行っています。**今後は、患者受け入れのシミュレーション、汚染創の除染手技なども行うことを計画しています。



平成28年度 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択
放射線健康リスク科学人材養成プログラム

放射線健康リスク科学 夏期集中セミナー

福島原発事故のような放射線災害に対応できる医療人材養成を目的として、医学部学生を対象に夏期集中セミナーを開催いたします。本セミナーでは、講義および実習を通して、放射線健康リスクに関する基礎ならびに実践的知識を集中して学ぶことができます。なお、本セミナーの内容は、医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版(E-6)に準じて行う予定です。



要項

対象： 中国四国地区の医学部の医学科学生*
期日： 平成29年8月18日(金)～8月19日(土)
開催場所： 広島大学 西キャンパス (広島市南区豊1丁目2-3)
募集定員： 20人
参加費： 参加費：無料

*学年は問いませんが、2年生以上が望ましい。

セミナースケジュール

8月18日(金曜日)
13:00～14:15 放射線生物学の基礎
14:30～15:30 放射線防護
15:45～16:45 放射線災害医療
17:00～18:00 放射線リスクコミュニケーション

8月19日(土曜日)
9:00～12:00 放射線災害医療実習

参加登録・お問い合わせ
広島大学西キャンパス学生支援グループ医学部担当
E-mail: kasumi-gaku-m@office.hiroshima-u.ac.jp (担当 奥田)
TEL 082-257-5050
上記までメールでお申込みください。

申し込み締切 2017年7月21日

○講義・実習スケジュール

日程	時間	内容	担当者
8月18日	13:00-13:10	オリエンテーション	粟井
	13:15-14:15	放射線生物学の基礎	田代
	14:30-15:30	放射線防護	権丈
	15:45-16:45	放射線災害医療	廣橋
	17:00-18:00	放射線リスクコミュニケーション	粟井
8月19日	9:00-12:00	放射線災害医療実習	廣橋、田代、粟井

○場所：
広島大学霞キャンパス 研究棟A 放射線診断学セミナー室



広島大学放射線健康リクス科学夏期集中セミナーの報告

さる2017年8月18日（金曜日）、19日（土曜日）の2日にわたって、広島大学霞キャンパスにて、放射線健康リクス科学夏期集中セミナーが開催されました。本学としても、医学生対象のセミナーは初めての試みであり参加者が集まるか心配しましたが、長崎大学、山口大学、岡山大学、福島県立医科大学、広島大学の5大学より5名の医学生、一名の初期研修医の方が参加しました。

1日目は、「放射線生物学の基礎」「放射線防護」「放射線災害医療」「放射線リスクコミュニケーション」の講義が行われました。少人数の参加者で講師との距離が近いこともあり、親密な雰囲気ながらも講義や実習中は活発な質疑応答が行われました。

2日目は、「放射線災害実習」で、原爆放射線医科学研究所の廣橋教授および広島大学病院の診療放射線技師の方の指導のもと、GMサーベ-メータの使用方法を学んだり、実際にタイベックススーツを着て、放射線災害時の救急医療の基礎について学んだりしました。

2日とも密度の高い講義および実習で、学生さんからも大変好評でした。

広島大学大学院放射線診断学栗井和夫



一日目の放射線災害医療の講義の様子（講師は廣橋教授）



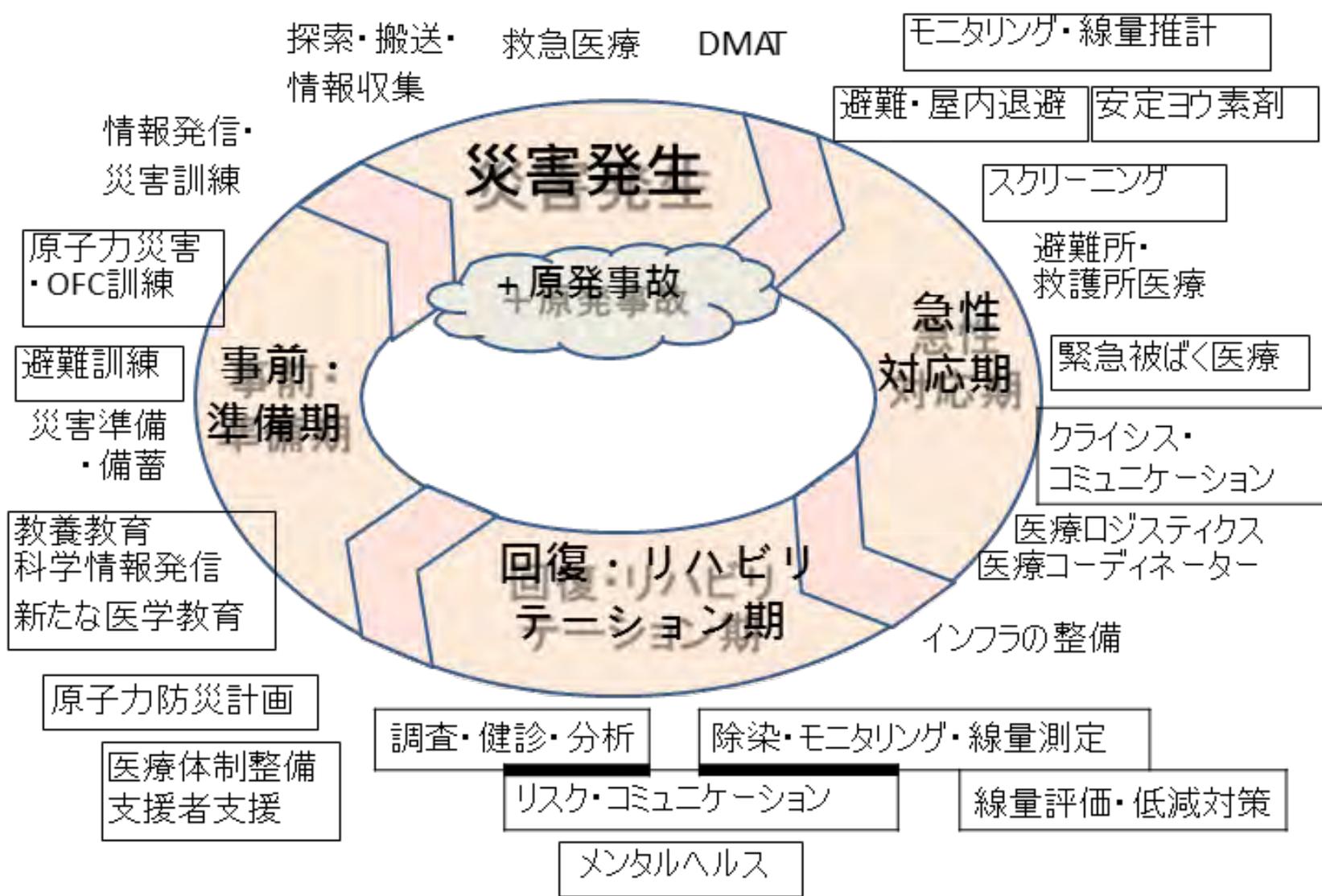
二日目の災害医療実習にて、GMサーベ-メータの使用方法を学んでいるところ



二日目の災害医療実習。タイベックススーツに着替えて、患者（シュミレータ）の処置を学んでいるところ。

- 福島県立医科大学シラバスについて

原子力災害サイクル



災害前(計6時間)



災害後(計82.5時間)

3年生 医学物理学(3)

- ①放射線の基礎(性質、単位)
- ②放射線人体影響(確定と確率的影響)

4年生 画像診断と放射線治療(1.5)

- ①総論(一部に人体影響、放射線防護)

4年生 麻酔・救急医学(1.5)

- ①災害医学(一部に放射線災害)

1年生 人体機能学概論(2)

東日本大震災と原発事故

3年生 医学物理学(3)

3年生 放射線生命医療学(20)

①東日本大震災と原発事故医療対応

②放射線生物学と測定実習

③放射線の種類・単位・性質、④人体影響

⑤DNA修復機序、⑥染色体と線量評価

⑦放射線事故、⑧最前線病院の医療活動

⑨原子力近代史と法律、⑩災害地域医療

⑪メンタルヘルス、⑫チェルノブイリ原発事故

⑬甲状腺と健診、⑭リスクコミュニケーション

⑮発がんメカニズムからみた放射線影響

3年生 チュートリアル(9)

4年生 画像診断と放射線治療(1.5)

4年生 麻酔・救急医学(2)

5年生 放射線災害医療臨床実習(42)

放射線測定実習、シミュレーション実習、リス

コミ演習、討議討論

6年生 臨床総括講義(3)

図3. 福島医科大学医学部シラバスからみた放射線災害医療学教育の変化

科目・コース（ユニット）名：**放射線生命医療学【医学3】**

（英語名称） Radiation Life Science and Medicine

担当責任者： 大津留 晶、坂井 晃、長谷川 有史

開講年次： 2017年度（平成29年度） 開講学期： 前期

必修／選択： 必修 授業形態： 講義

概要／方針等：

- （1）放射線の光と影～放射線の利用と原子力災害の歴史～
- （2）放射性生物学の基礎と放射線細胞障害機序
- （3）放射線被ばくの人体への影響
- （4）線量測定と線量評価
- （5）被ばく医療と放射線災害医療～福島第一原発事故～
- （6）放射線とがん～発がん分子機構～
- （7）白血病と甲状腺がん
- （8）災害とメンタルヘルス
- （9）リスク学とリスクコミュニケーション
- （10）放射線災害と科学・技術・社会

学習目標：

- （1）放射線の種類・単位と性質が説明できる
- （2）被ばくによる細胞障害と発がん機序を理解する
- （3）放射線被ばくによる人体への影響について解説できる
- （4）過去の放射線事故や原子力災害、福島原発事故の現状について理解する
- （5）被ばく医療と原子力災害医療における医療対応の特徴を説明できる
- （6）線量評価と基準値、医療や社会におけるトレードオフを解説できる
- （7）災害の人間学的側面、社会的側面、政策上の放射線防護と原子力防災を理解できる
- （8）白血病と甲状腺がんについて説明できる
- （9）災害保健としての健康調査・スクリーニングのあり方を説明できる
- （10）インフォームドコンセントとリスクコミュニケーションの相違を理解できる
- （11）放射線災害の被災者の気持ちに共感し、そのメンタルヘルスを理解する

評価方法：定期試験（記述問題と選択式問題）、講義のレスポンスカード、再試の場合は面接試験（予定）

E-learning

もくじ

1. ドキュメント福島第1原発事故
2. 放射線の基礎知識 I
3. 放射線の基礎知識 II
4. 東京電力福島第1原子力発電所事故
5. 避難者の生活とメンタルヘルス
6. 緊急被ばく医療



緊急被ばく医療11 診療②

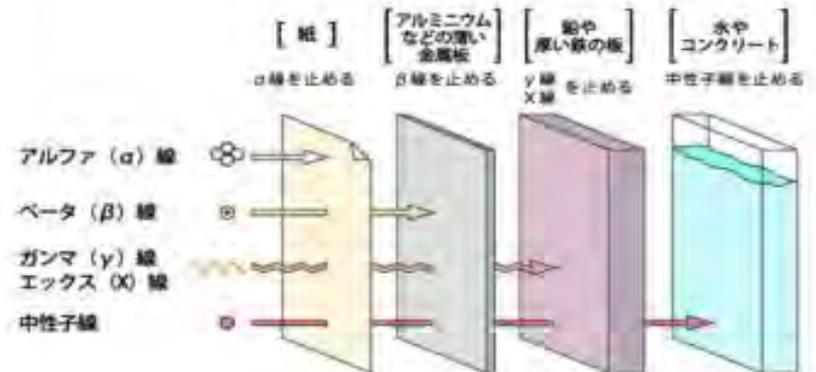
医療スタッフの汚染拡大防止

- 防護服(ディスポーザブル手術着でも可)
- 個人線量計
- キャップ
- ゴーグルまたはフェイスシールド
- 手術用手袋
- ディスポーザブル手袋
- マスク
- 足袋
- 養生テープ

など



放射線の基礎知識7 放射線②



担当責任者 大津留 晶、長谷川 有史 開講年次 5年 開講学期 通年 必修 授業形態 実習

概要／方針等

放射線災害医療の基礎を身につけるとともに、放射線被ばく・放射性物質による汚染傷病者の診療や、汚染拡大防止・汚染検査・除染・線量評価・放射線防護についての実習。放射線災害後の地域医療・保健における健康管理、スクリーニングのあり方、総合診療、健康リスクコミュニケーション、メンタルヘルスについての実習。

授業計画／

（1）放射線と健康に関する臨床医学と測定実習（BSL第1日目）：水曜日

- ① 8:30-9:00: オリエンテーション
- ② 9:00-9:50: 東日本大震災の概要のプロブレムマップ作成
- ③ 10:00-12:00: 放射線と健康
- ④ 13:00-15:00: 放射線測定実習
- ⑤ 15:10-16:00: 避難者の状況とメンタルヘルス
- ⑥ 16:00-17:00: 社会コミュニケーション特論

（2）放射線と健康に関する臨床医学と相談実習（BSL第2日目）：木曜日

- ① 9:00-10:20: 甲状腺疾患と超音波スクリーニング
- ② 10:30-12:00: WBC実習
- ③ 13:00-14:30: 健康相談実習
- ④ 14:40-15:40: リスクコミュニケーション特論
- ⑤ 15:50-16:40: 症例検討

（3）放射線と健康に関するまとめ（BSL第3日目）：金曜日

- ① 9:00-9:30: 県民健康調査オリエンテーション
- ② 9:30-12:00: 実習またはフィールドワーク（1）
- ③ 13:00-16:00: 実習またはフィールドワーク（2）
- ④ 16:00-17:00: まとめ

県民健康調査の結果をみて、どのような保健・医療上の対応が必要かまとめる。また、よろず健康相談、地域診療、甲状腺検査、出前授業、などに、日程調整がつけば参加し、まとめの参考にする。

尚、フィールドワークの出発時間は、都度調整する。

（4）緊急被ばく医療・放射線災害医療実習（第4日目、救命救急医学BSLの第2週水曜日に行います）

- ① 9:00-12:00: 外傷患者初期診療に放射性物質汚染・被ばくが加わった診療実習
- ② 13:00-15:00: 放射線災害机上演習
- ③ 15:10-16:00: 急性放射線症候群
- ④ 16:00-16:30: まとめ

その他活動と今後の展望

- 教育交流
 - 講師および学生の相互乗り入れ
 - 教育コンテンツ（DVD等）の共同開発
- 事業拡大
 - 教育コンテンツ配布
- 放射線健康リスク教育必修化WGとの連携
 - 8月18日 第49回日本医学教育学会大会（札幌）
「医学教育における放射線リスク科学教育の必須化」のタイトルでシンポジウムを開催し広報を行った。
 - 「放射線健康リスク科学教育（放射線の生体影響と放射線障害）に関する実態調査」アンケートを作製、**全国の医学部へ11月1日発信された。**
- 「放射線健康リスク科学人材養成プログラム」 公開シンポジウム 2018：
長崎（2月2日）、長崎公開シンポの発表内容のパンフレットを作製・配布

第49回日本医学教育学会大会：2017年8月18日（金）・19日（土）

シンポジウム 2 医学教育における放射線リスク科学教育の必須化 Symposium 2 Radiation risk science as a required course in medical education

8月18日（金） 9:00～10:30 第2会場（1階 特別会議場）

August 18 (Fri.), 9:00 ~ 10:30 Room 2 (1F Conference Hall)

座長 松田 尚樹（長崎大学） 安武 亨（長崎大学）
Naoki Matsuda (Nagasaki University) Toru Yasutake (Nagasaki University)

- S2-01 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂と放射線健康リスク科学教育 15
Revision of medical education model core curriculum and education of radiation health risk sciences.
細井 義夫（東北大学）
Yoshio Hosoi
(Tohoku University)
- S2-02 教科としての放射線のリスクコミュニケーション 16
A subject of radiation risk communication
神田 玲子（量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 放射線防護情報統合センター）
Reiko Kanda
(NIRS / QST)
- S2-03 医学部教育における新しい放射線災害医療教育の試み 16
Challenge of a new radiation disaster curriculum in medical education
大津留 晶（福島県立医科大学）
Akira Ohtsuru
(Fukushima Medical University)
- S2-04 改訂コアカリにおける放射線教育 17
Radiation risk science in the revised model core curriculum
佐々木 昌弘（文部科学省 高等教育局 医学教育課）
Masahiro Sasaki
(MEXT)

国医会議発第1号
平成29年11月1日

全国国公立大学
医学部長・医学群長・医学類長 殿
医科大学長・学校長 殿

国立大学医学部長会議
常置委員会委員長 丸山 眞 杉
全国医学部長病院長会議
会 長 新 井 一
医学教育委員会委員長 山下 英 俊

(公印省略)

放射線健康リスク科学教育（放射線の生体影響と放射線障害）
に関する実態調査について（依頼）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃、国立大学医学部長会議、全国医学部長病院長会議にご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、国立大学医学部長会議の放射線の健康リスク科学教育の必修化WG(座長・永安武:長崎大学医学部長)より提案があり、下記のアンケート調査を行いたいと考えております。

放射線健康リスク科学教育（放射線の生体影響と放射線障害）に関する実態調査

国立大学医学部長会議 教育制度・カリキュラムに関する小委員会
放射線の健康リスク科学教育の必修化WG

平成26年に、医学教育における必修化をはじめとする放射線の健康リスク科学教育の充実が日本学術会議より提言されました。平成28年改訂版のモデル・コア・カリキュラムでは、項目として「E-6 放射線の生体影響と放射線障害」が追加され、旧版から移行したE-6-1) 生体と放射線の他に、E-6-2) 医療放射線と生体影響、E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション、E-6-4) 放射線災害医療が新たに加わりました。

このような状況における、貴大学における放射線健康リスク科学教育（放射線の生体影響と放射線障害）に関する実態についてお尋ねいたします。

時間	プログラム
13:00~ 13:10	開会のあいさつ 永安 武 (長崎大学医学部長) 事業責任者
13:10~ 13:30	「放射線健康リスク科学教育とモデルコアカリキュラム」 文部科学省高等教育局医学教育課 企画官 眞鍋 馨
13:30~ 14:30	第一部 文部科学省GP：進捗報告 座長：浦田 芳重 (長崎大) ①「放射線災害の全時相に対応できる人材養成」 森 祐太郎 (筑波大) ②「放射線健康リスク科学人材養成プログラム」 浦田 芳重 (長崎大) 大津留 晶 (福島県立医大) 栗井 和夫 (広島大) 工藤 崇 (長崎大)
14:30~ 14:40	休 憩
14:40~ 16:20	第二部 特別講演 座長：松田 尚樹 (長崎大) 「放射線健康リスク科学教育の必修化提言の背景」 山下 俊一 (長崎大) 「医学教育における放射線基礎教育の重要性と今後の課題」 續 輝久 (福岡歯大)
16:20~ 16:30	休 憩
16:30~ 16:50	講 評 外部評価委員 岡崎 龍史 (産業医大学) 甲斐倫明 (大分県立看護科学大) 佐々木 雅之 (九州大) 中島裕美子 (九州大) 長町 茂樹 (福岡大)
16:50~ 17:00	閉会のあいさつ 宮崎 泰司 (長崎大学原爆後障害医療研究所所長)

